

☉明星【白川小だより】☉

学校HPへ
QRコードで
検索を！！



令和2年8月7日発行

第23号

文責：三谷



『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

夏休みに入り、梅雨も明け暑い日が続いています。今週月曜日から始まったサマースクールの最終日となりました。



期間中子どもたちは暑い中元気に登校して、夏休みの課題等に取り組みました。そして、いよいよ来週からは本格的な夏休みとなります。白川小だより第22号でもお伝えしたように、例年とは違い短い夏休みですが、お子さんの健康管理等に留意して過ごしてください。

2学期は8月24日(月)から始まります。子どもたちが元気に登校してくることを楽しみにしています。

<1学期まとめの授業：終業式>←7月31日(金)

なかなか全体で揃うことが躊躇われる状況下ではありますが、人と人との間隔を十分にとりつつ換気もしてマスクを着用して終業式を行いました。1学期は色々な行事が延期や中止となり、子どもたちにとってはさびしい学期になりました。

2学期以降も色々な計画をしていますが、状況変化によっては、急な延期中止等を余儀なくされることも想定されますので、ご理解・ご了知をお願いします。

- 校長先生のお話
- 夏休みの生活について
- 児童会10の約束について
- 1学期多読賞の表彰



校長先生のお話

- 1 健康管理(熱中症・感染症等の予防)
- 2 規則正しい生活(生活のリズムを崩さないように)
- 3 1学期の復習(スモールステップで継続は力なり)
- 4 命を大切に(交通・水の事故等に注意)



夏休みの生活について



1学期多読賞の表彰



児童会10の約束

<Summer School&Vacationの成果を2学期に出そう!!>

子どもたちは、夏休みの宿題やサマースクール用の課題、教科書の内容に熱心に取り組んでいる姿が見られました。暑さと予防のため、エアコンを活用しながら換気をして、快適な環境下で学習に取り組みました。この成

果を2学期の学びにつなげていくためにも、来週からの夏休みもお家で計画的に取り組んでもらいたと思います。ご家庭でも言葉がけを引き続きお願いします。



＝白川小コラム＝「線状降水帯って??？」

5年生の理科で天気の世界を学びます。先月は日本に台風の接近がないという月でもありました。また最近、報道等で「線状降水帯」という言葉をよく耳にします。もちろん、大雨(豪雨)を降らす雲の集まりのことを表していますが、この雲の集まりはどのように作られるのでしょうか?考えてみたいと思います。その前に...

○雲ってどうやってできるのだろう?

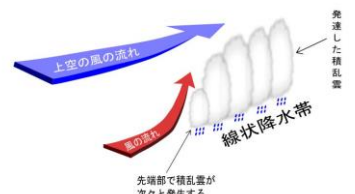
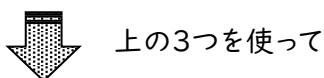
雲は、地表付近で太陽に温められた水分をたっぷり含んだ空気が上に上がる(温かい空気は上に上がります!)ことで、上空に行くほど気圧が下がるので、空気が膨張して温度が下がります。空気が水蒸気の集まりに変化したので、目に見えるようになります。これが雲の正体です。雲は、ふわふわとした綿(わた)のように見えますがほんとは細かい氷や水の粒が集まったものです。

○雨ってどうやって降るのだろう?

雲の中の小さな氷のつぶや水の粒がくっつきあって、雲はだんだん大きくなる。すると、雲の中の氷の粒が大きくなって、重くなってしまい、雨となって落ちてきます。落ちてくる時、途中でとけて水に変わったものが雨になります。氷の粒がとけずに、そのまま降ってくると、雪やあられになります。

○積乱雲ってどんな雲だろう?

夏になると、入道雲と呼ばれる雲ができますが、この入道雲が積乱雲です。積乱雲は、温かい空気の下に、冷たい空気もぐりこむことで温かい空気が上に押し上げられて、縦に長い雲ができます。[雨が降る範囲は狭いですが、分厚い雲なので強い雨が降ります]



【「線状降水帯」って何??？」

線状降水帯は、次々と発生した雨雲(積乱雲=入道雲)が列をなし、連続してできた積乱雲によって、数時間に渡ってほぼ同じ場所を通過・停滞することで作られます。そしてこの線状に伸びる強い降水を伴う雨を降ります。線状降水帯の先端部で積乱雲が繰り返し発生し、風下側へ移動することで積乱雲が列をなして形成されることが多いと言われています。つまり、「線状降水帯」は前線にそってできた積乱雲(=入道雲)がたくさんつながった雲の集まりということになります。